

移・職・住 外国人と生きる

人材求めて③

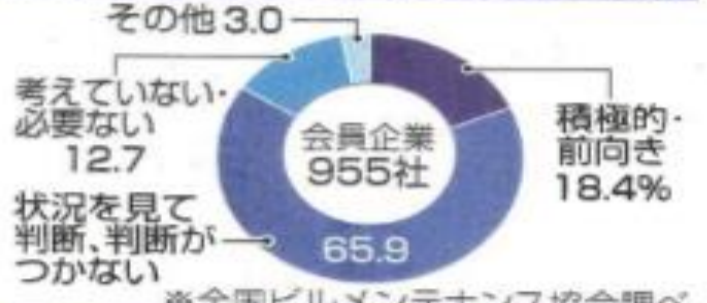
すれ違う本音と建前

のパートの女性が、時給を上げたドラッグストアやコンビニに流れた。山崎真人社長(48)は「清掃が『きつい』『汚い』『給料が安い』というイメージは昔よりなくなったが、他業種と競争になると選ばれにくい」と率直に語る。色白が美しいとされるベトナムでは、日焼けをしない室内での仕事が女性に人気だ。日本は「世界一清潔な国」と認識され、清掃業への悪いイメージもなかった。やる気に満ちた人材が

集まり、採用数は当初予定の4人から6人へ増えた。経済発展が続くベトナムにはイオンなどの商業施設が次々と開業し、日東商事も事業進出を視野に入れた。帰国した技能実習生を現地社員として採用する構想を描く。

2016年9月、高知市のビル管理会社「日東商事」は、ベトナムのホーチミン市で技能実習生の採用面接を初めて実施した。日本ではなかなか人が集まらない商業施設やホテルの清掃スタッフを募集したところ、予想を上回る約20人の女性から応募があった。日本国内の雇用状況が改善し始めた14年ごろから人材不足が深刻化。特に主方

ビルクリーニング業界の外国人技能実習生受け入れ姿勢



企業側が感じている不安

- ・日本語でコミュニケーションができるか
- ・手続きや管理面で面倒が多い
- ・生活指導や教育の方法が分からない
- ・経費がかかり過ぎる
- ・雇用期間や待遇など条件が合わない

外国人技能実習制度は、習得した技術や知識を母国で生かすのが建前だ。ところが、日東商事で働くティン・ティ・ピッチ・フォンさん(24)は「日本で稼ぎ、ベトナムでゲーキ屋さんを開きたい」と屈託ない。ファン・チャン・トゥイ・ハーさん(22)も「日本と同じ給料なら考えるけれど…」



日東商事の社員(右)とミーティングをするファン・チャン・トゥイ・ハーさん(奥)ら。1月、高知市

と漏らす。すれ違う本音と建前。山崎さんは「今は『出稼ぎ』という意識が強いが、この仕事にやりがいを感じる実習生を地道に育てていくし

かない」と、先を見据える。ビルクリーニング業界が外国人技能実習生の受け入れを始めたのは約3年前。その後も有効求人倍率が全業種の平均を大きく上回

り、人手不足は解消されないうが、受け入れに二の足を踏む企業が今も多い。

全国ビルメンテナンス協会(東京)の調査では、昨年10月時点で会員企業の65・9%が「状況を見ながら判断」「現状では判断がつかない」と回答。コミュニケーションや生活指導のほか、経費や手続きの負担など、不安の種は尽きない。

協会の担当者は「労働人口が減る中で、他業種との外国人材の獲得競争はますます激しくなる」と予測する。協会は、会員企業の実習生受け入れにつなげるため、企業への情報提供や研修の実施といった支援体制の整備を始めた。選んでもらえる業界になるには「模索が続いている」。